

第50回子規顕彰小中高校生俳句大会



第50回子規顕彰小中高校生俳句大会で6,995句の応募の中から選ばれた、グランプリ4句と特選130句を紹介します。
※●は複数の選者に選ばれた句。()内は学校名・学年(敬称略)

小学1～3年生の部

グランプリ



大西 玲漣
(難波小2年)

「ありがとう!」いっしょにがんばろう!。ほくの周りにはいい言葉を使っている友達がたくさんいます。いい言葉が風に乗ってどこまでも飛んでいくから、いい言葉が広がるんだなと思いました。そして、この気持ちを込めて句を作りました。
グランプリに選ばれてとてもうれしかったです。これからもいい俳句を作りたいです。

いいことばいっぴつかう風かおる

中尾 順子 選

立ちこぎでスピードアップ春の風
宮部 碧大(垣生3)

宇宙から花火の花は見えますか
富岡 妃慈(石井北3)

いいことばいっぴつかう風かおる
大西 玲漣(難波2)

うんていののじゃまをしている天道虫
平木 凜佳(北久米2)

水でつぼうへいのすき間をねらいうち
佐々木 湧人(久枝2)

あすは海ふろ上がりから水ぎきる
高須賀 圭(八坂2)

小学4～6年生の部

グランプリ



菅原 菜々美
(和氣小6年)

夏休み直前の集団下校のことで。あまりにも暑くて、ダラダラ歩いていた時、低学年の男の子が「これ、さしたら?」と、手に持っていた置き傘をバツと開きました。すぐにみんながまねをしました。青い傘の陰は、すずしくはなかったけれど、何だか楽しくて、雨の日以外の傘もすてきたなど強く印象に残りました。

雨がさを日がさに変えた下校中

矢野 裕司 選

雨がさを日がさに変えた下校中
菅原 菜々美(和氣6)

カンをけるチャンスうかがう夏木立
玉井 颯人(東雲6)

小望月にエアシュートする帰り道
松田 高輝(雄郡6)

無人駅並と一緒に電車待つ
渡邊 凌央(潮見6)

覚悟した初の丸刈り猛暑の日
大河 恵太(宮前5)

中学生の部

グランプリ



秦 裕太郎
(愛大附属中3年)

本を買って帰ろうとした時に、突然雨に降られ、軒下からなかなか出れなかったことを俳句にしてみました。遊び心ある俳句を作ったので軒下を、その時数学で習っていた「ルート」に例えてみました。
賞をもらえとは思っていませんでした。このような賞をいただき、とてもうれいです。

夕立や我を√に閉じこめて

奥村 幸一 選

おそろいの浴衣並べて夜を待つ
有馬 夕南子(湯山3)

向日葵や監視カメラと同じ向き
田中 優汰(三津浜3)

夕立や我を√に閉じこめて
秦 裕太郎(附属3)

三人と二匹で見た星月夜
下司 海渡(椿2)

十分後また左手に持つアイス
城戸 夏音(鴨川2)

あんこ屋の角の大きな雪だるま
菊池 智輝(済美平成2)

浴衣着て茶会の後の足のまめ
河野 日向子(済美平成2)

高校生

高校生の部

グランプリ



久保 智椰
(愛大附属高2年)

終わらない夏休みの課題に慌てていた時、西日が現れ勉強中のテーブルの端を照らしました。西日は「宿題をやれ」というかのように、テーブル全体を攻めてきて、まるで僕までも攻められているように感じました。暑さと焦りの中、「大西日」という強烈な日差しを美感した時の一句です。すばらしい賞をいただき、ありがとうございました。

テーブルのはしから攻める大西日

福谷 俊子 選

教室の蛇口を上に向けて夏
大元 美波(伊予1)

教室の端ちっばけな吾と蟻と
石丸 彩乃(附属2)

高学年

高岡 周子 選

テーブルのはしから攻める大西日
久保 智椰(附属2)

朝焼けがいつも綺麗な通学路
古賀 詩菜(城南2)

鳴き声はコントラバス似の牛蛙
白石 成美(松山北1)

首痛めあれだあれだとオリオン座
浅日 姫歌(聖カタリナ2)

夕涼み辺りを照らす五尺玉
安岡 洗樹(松山工3)

渡邊 孤鶯 選

浴衣着て今日こそ君に伝えたい
佐ヶ山 萌(松山南砥部分校1)

教室の蛇口を上に向けて夏
大元 美波(伊予1)

祖父が泣き歴史を感じる夏の朝
菅 日向子(伊予2)

落ちる汗石手震える半田こて
白方 義久(松山工2)

江崎 紀和子 選

テーブルのはしから攻める大西日
久保 智椰(附属2)

黒板の消えてゆく文字天の川
田中 匠(附属2)

飛び魚と空を飛んでる夢を見る
橋本 祐一(城南3)

紫陽花がぼんやり映る水たまり
盛重 有美(松山北1)

高石 幸平 選

柿若葉かつて我らの司令塔
高島 慎太郎(松山東2)

靴下を脱いでも脱げぬ日焼け跡
弓達 友貴(新田青雲4)

せみが鳴く短い命ふりしほり
川崎 樹杏(城南1)

キックオフゴールを目指す炎天下
加藤 颯太(東温1)

高山 佳子 選

そうめんをかぞくみんなでちゅるる
奥村 侘仁(宮前2)

むかえ火で空にけむりのナビゲーション
徳丸 都子(附属3)

店先の目玉商品かぶと虫
川九 開(潮見3)

ノコギリをおしたりひいたり夏休み
高橋 快秀(姫山3)

おとうとはわがままいっぴい夏のかぜ
大森 夢叶(さくら2)

せみのからめきつばなしはほくみた
今井 睦貴(番町3)

いいことばいっぴつかう風かおる
大西 玲漣(難波2)

高須賀 智子 選

ちようがとぶだれにもいわずあみをとる
小佐海 未唯(垣生1)

夏の夜いことならんでゆめを見る
花岡 御幸(道後3)

らむねのむびだまきりおとからり
藤田 大珂(和氣1)

ポーズきめいもうとわらうはつゆかた
菅野 優輝(窪田1)

さかむけにしおがしりしりきゅうりもみ
香西 汐音(湯山2)

うなぎたちつてギョウギョウかくれんぼ
木原 香南子(椿1)

ひまわりのワンピースゆれたま走る
真木 穂佳(番町2)

柴川 智恵子 選

話したい夏の思い出始業式
長野 柊斗(桑原3)

ひさしりほくのあいぼうなつぼうし
吉井 清士郎(久米2)

スイミングしんきゅうできずかたつむり
井門 悠聖(久米2)

おかあさんごはんありがと春の風
土居 海斗(さくら2)

夏休みいっぴいめこむ図書ぶくろ
檜垣 朋(石井東2)

せみのからめきつばなしはほくみた
今井 睦貴(番町3)

ソーダ水とてもきれいな字のノート
羽柴 由依(難波3)

吉見 香奈子 選

流星ぐんまだかまたかと身をそらす
田中 陽大(双葉3)

かみかざりにあつてはかねむの花
増子 颯樹(桑原2)

夜空からほくのこと見る花火かな
関谷 空(石井3)

せみのこえいましきけないおとがする
大西 洗成(道後1)

夏休み高速とはし父歌う
掛本 陸羽(北条3)

夏休みいっぴいめこむ図書ぶくろ
檜垣 朋(石井東2)

ブランコでふわつととれるかせの中
村上 紗梨(番町2)

茨木 里子 選

ひまわりが日の出の入り見とどける
井手 惇(潮見5)

扇風機冷たい風がほほに間う
泉 柚里菜(北久米6)

大花火心のシャッター連射中
川上 瑞葉(久枝6)

甘き増す旬のトマトに一目惚れ
村井 海公(双葉6)

せみの声プラス三度の効果音
西村 美咲(さくら6)

おそろいを食べてほふほふ白いゆげ
石丸 かの(伊台6)

扇風機それがぼくのパートナー
袋田 涼平(たちばな6)

大久保 礼子 選

炎天下ミットにさざるストライク
樋口 裕太郎(味酒6)

浴衣着て小股で歩く長い夜
宮崎 瀬那(潮見5)

旗振って団長の重み風薫る
松友 優奈(味生6)

クロールで弟を追うよおにこっこ
重見 悠斗(小野4)

炎天下水筒の底のぞきこむ
谷山 愛(和氣6)

太陽が日傘をおしのけせめてくる
野本 那都(味酒4)

ますつかみ目おににして追いかけ
竹葉 らん(久米4)

向井 京子 選

ばあちゃんといっぴいおくれのぼんおどり
渡部 勇毅(附属4)

宿題中曹中のあせもで線がむ
大西 哲平(在原4)

ただいまの姉の声きく夏休み
中尾 杏林(小野6)

人生初ウォーターライダー四十五度
永野 隼翔(さくら4)

冷房で姉妹けんかびたりやむ
村上 李咲(久枝6)

鏡こしゆかたの姉をのぞき見る
久門 聖菜(河野6)

新久米音頭母のゆかたの色あせて
山内 心(北久米4)

矢野 三佳里 選

不器用な下を出すたびにせみ笑う
宮田 薫(潮見6)

祖母七十昔話の星月夜
三谷 ふわり(石井4)

蛍見てライトを消した子どもかな
高橋 楓加(道後6)

弟がはいはいでつかむむわの種
山本 陽菜(久枝6)

島時間一オクターブ上の夏
栗田 大愛(番町6)

母さんのひみつ話を知る金魚
池水 菜彩(窪田4)

万緑にことごとゆるる「文」の文字
長谷部 志歩(石井北4)

酒井 弘子 選

誰怒いかくも紅きや曼珠沙華
竹森 加奈(城西2)

一人旅向日葵長無人駅
土居 侑生(南2)

軒下に揺れるじんべい祖父を待つ
久門 新菜(北条南3)

初盆や似た顔集まる八畳間
中野 京香(西2)

ぼくの夢母に伝える夏の空
藤原 颯士(内宮2)

蝉の声おのれの生涯語り継ぐ
玉田 雪乃(津田2)

入道雲育てや育て空を食み
二宮 妃(東西2)

尾後 千恵 選

ひまわりの波にのまれた帽子かな
山本 仁虹(垣生1)

あくびする猫の背をなで冬ぬくし
矢野 蘭丸(東1)

大きめの制服に降る桜かな
濱田 萌々乃(南第二1)

夏の川草舟ゆつくり送り出す
大崎 葉乃(南第二1)

花火終え弟眠る父の背に
小松 慧一朗(鴨川2)

おそろいのTシャツ踊る雲の峰
梅木 花純(東西2)

鳴き砂の奏でるリズム夏惜しむ
高松 直輝(済美平成2)

武田 香織 選

日盛りやホルン抱えて立ち上がる
石丸 実祈(東西2)

裏庭の線香花火父と母
大西 美月(鴨川2)

祖母が縫う新作甚平心地よし
洲尾 空(奈土3)

投げ出したノートが散らばる夏の夜
山口 小春(湯山3)

打ち水や祖父のうしろにくる小鳥
門野 美優(東西1)

ひぐらしや祖父の病室遠ざかる
松本 侑大(小野1)

鳥一羽祖父連れ海霧を越えていけ
松田 花奈(鴨川2)

角田 鉄平 選

おそろいの浴衣並べて夜を待つ
有馬 夕南子(湯山3)

夕立や我を√に閉じこめて
秦 裕太郎(附属3)

夏の風自分を変えたいスプリント
河本 駿吾(雄新1)

夏富士がさかさに見える遊園地
和田 朱里(西2)

すいか食らう父に感じる幼少期
吉川 緋彩良(東西2)

姉ちゃんの葉書の金魚真似て描く
間島 優衣(済美平成2)

つり草がいつしか低し春隣
大野 純優香(済美平成2)